

第42回 淑瞳会のご案内

日時 令和7年7月26日（土）16:00～（受付開始 15:30）

ところ 神戸ポートピアホテル 本館地下1階 第一部学術講演会 布引・北野
第二部懇親会 和楽

会費 学術講演会 1,000円

生涯教育認定事業

懇親会 A会員/ 7,000円、B会員/ 2,000円、C会員/ 無料

学術講演はクリニックのスタッフの方にもオルソケラトロジーの勉強をしていただける内容となっております。是非、ご参加ください！

お返事は6月14日（土）までに別紙の返信用FAX用紙にておねがいたします。

ホテルでの託児はございません。各自で手配をお願い致します。

費用の半額を補助致します。（上限5,000円）

補助に関する詳細は事務局まで。

16:00～18:00 第一部 学術講演会

一般講演Ⅰ 「術中OCTで診る」 曾谷 育之 先生（神戸大学 特定助教）

Ⅱ 「視線解析装置を用いた内斜視の輻湊・開散評価」

平竹 純一郎 先生（兵庫医科大学 助教）

特別講演 「オルソケラトロジーと外科的屈折矯正治療の実臨床」

吉野 健一 先生 （吉野眼科クリニック 院長・SOS-J 世話人代表）

18:10～20:00 第二部 懇親会

「インドにハマった眼科医のはなし」 松尾 洋子 先生（まつお眼科 院長）

特別講演



吉野 健一 先生 吉野眼科クリニック 院長・SOS-J 世話人代表

1986年 3月 日本医科大学 卒業

1986年 4月 慶應義塾大学眼科学教室 入局

1992年 7月 University of Miami, Bascom Palmer Eye Institute ポスドクフェロー

1995年 5月 吉野眼科クリニック 院長

1998年 4月 東京歯科大学眼科学教室 非常勤講師

1999年 6月 慶應義塾大学先端医科学研究所細胞情報研究部門研究員

2002年 1月 日本コンタクトレンズ学会誌 編集委員

2002年 7月 日本医科大学眼科 非常勤講師

2019年 10月 SOS-J 世話人代表 2019年 11月 日本コンタクトレンズ学会 理事

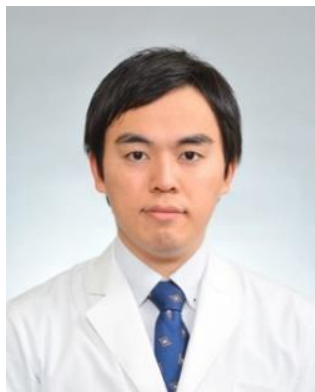
2023年 10月 日本コンタクトレンズ学会

オルソケラトロジーガイドライン委員会 委員長

「オルソケラトロジーと外科的屈折矯正治療の実臨床」

昨年は、3名の演者によるオルソケラトロジー（オルソK）の基礎についてお話しさせていただきましたが、本年はオルソKの実臨床についてのリクエストをいただきました。昨年との重複がなきよう、本年はオルソKの適応がない近視進行眼への外科的屈折矯正治療（レーシックやフェイキック IOL）についてもお話しさせていただきます。

一般講演



「術中 OCT で診る」

曾谷 育之 先生 神戸大学 特定助教

近年、様々な分野の眼科手術において術中 OCT (iOCT: intraoperative optical coherence tomography) の有用性が報告されている。術中の正確な状態把握に加え、教育指導にも活用されており、神戸大学でも実際に使用している。水晶体脱臼や眼内レンズ (IOL) 脱臼及び人工無水晶体眼に対する強膜内固定時に生じる IOL の傾斜について、トリアムシノロンアセトニドを用いて iOCT にてリアルタイムに計測し、必要に応じて刺入角度などを調整することにより術後の IOL 傾斜を抑制できることを以前に報告した。また、裂孔原性網膜剥離に対するバックルを用いた網膜復位術においても、iOCT にて裂孔位置とブロンベの位置を確認することで、裂孔閉鎖を確実なものとする方法を考案した。このように、iOCT は前眼部から後眼部まで多彩な手術において手術手技をリアルタイムで評価することができ、これまで以上に精密・正確な手術を行う一助となると考えられる。

本講演では強膜内固定や網膜復位術における iOCT の活用法につきお話しする。



「視線解析装置を用いた内斜視の輻湊・開散評価」

平竹 純一郎 先生 兵庫医科大学 助教

【目的】視線解析装置を利用し、内斜視の輻湊・開散誘発時の眼球運動を検討した。

【対象と方法】12-40 歳で、矯正視力が良好、45prism diopter 以内の内斜位または内斜視、眼球運動制限が無い者を対象とした。被験者の顔から 60cm の位置にディスプレイ、30cm の位置に近方用視標を置き、被験者には 5 秒毎にディスプレイ上の視標と近方視標を交互に見つめるよう指示し、輻湊解散運動を評価した。視線位置の解析はアイトラッキングシステム (Tobii Pro Spectrum) を用いた。

【結果】解析対象は 22 例 (男性 11 例, 女性 11 例) あり、平均年齢は 24.9 ± 6.8 歳だった。輻湊・開散誘発しているにもかかわらず、共同運動を示したものが 16 例 (72%) 認めた。共同運動と輻湊・開散運動を認めた群の間に、斜視角、立体視、患者特性に差は無かった。共同運動

群 16 例の中では、固視眼と非固視眼の運動に差がある症例が 13 例で、Hering の等量神経支配の法則に一致する共同運動は 3 例のみだった。

【結論】内斜視では輻湊・開散ができる症例は限られており、非対称性の運動が多かった。

第 2 部 懇親会



「インドにハマった眼科医のはなし」

松尾 洋子 先生 まつお眼科 院長

幼少期より父の影響 (単なるインド料理好き) でインド料理レストランに行く機会が多く、物心ついたころからナンを食べていた。6 年前よりアチャール作り (インドの漬物) をきっかけにインド料理の自作をはじめた。当初はアチャールやサモサなど副菜といわれるものを作ることが多かったが、次第にカレーを作るようになり今ではインド料理全般を自作している。

3 年前より定期的に渡印し現地でインド料理を学ぶ。昨年の夏に行われた NHK 「激突めしあがれ」 自作カレーの大会で全国 106 名のアマチュア料理人の中から優勝。懇親会ではインドやインド料理にはまったきっかけ、さらにインドの魅力をインド各地の写真をお見せしながらお伝えする予定。

現在はクリニックの院長として診療を行う傍ら、不定期でインド料理教室を自宅で開催、またカレーのレシピ監修やケータリングなどを行う。